R7 楡木小学校　学校通信
No.１７
なりたい自分になる！
In 楡木サラダボウル
令和７年８月２９日
文責　余宮

２学期も楡木小職員一同、子どもたちの健全育成に尽力いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

## しなやかに生きる

２学期を始めるにあたり、先日の８月１１日豪雨災害に際し、被災された方々すべてに心よりのお見舞いとお悔やみを申し上げたいと思います。そして、改めて何か本校の子どもたちの学びに不便があるようでしたら、ぜひ学校にご連絡ください。

（下に、被災の状況を記します。読みたくない方は飛ばしてください）

何よりも、私は自然の恐ろしさを改めて感じました。私事で恐縮ですが、住まいが坪井川遊水地公園付近ですので、豪雨当日は大変肝を冷やしました。鳴り響くサイレン、携帯電話からも非常事態を告げるアラーム、インターネットの情報からも切迫した事態が伝わってきました。眠れぬ夜を過ごし、それでもいつものように朝の散歩に出かけてみると、そこは私の知らない私の町になっていました。土砂が…動けない車が…床上まで上がったであろう水が…そして何より、いつもは優しく流れ、私たちの生活を潤してくれている坪井川が、坪井遊水地公園が見たこともない姿に変わっていました。

水没・・・

これしか表現する方法がないほどの水が、公園内にはありました。

自然の恐ろしさを感じずにはいられませんでした。

異常気象が毎日のようにどこかで起きている。そんなことを他人事のように感じていた私は、ここで猛烈な反省をしなくてはいけません。どれもこれも、決して他人事ではなかった。しかし、本当の理解はできていなかった。痛みを感じなければ理解できない自分の日常性バイアスに、何度も猛省を繰り返すしか、その日にできることはありませんでした。

１日たって、被害状況が露わになり、改めて自然の恐ろしさを胸に刻んだ後、ふと坪井川遊水地公園をのぞいてみた時、驚く光景を目の当たりにしました。

まだ、故障した車が道路に置かれている時。まだ、私の通い始めた歯科が途方に暮れている時。まだ、崩れた土砂がそのままで呆然としている時。何もかもが豪雨で打ちひしがれていると思われている時、なんと坪井川遊水地公園のスイレンの花が可憐に咲いていたのです。

完全に水没したと思われるスイレンの花が咲いている。

これには、本当に驚かされました。

しなやかに生きる。そんな言葉が心の中に響きました。

やがて、濁流になぎ倒されていた坪井川沿いの草木たちも、いつの間にか力強く立ち上がっている姿が見られるようになりました。遊歩道にはちらほらコスモスが咲き始めている。

もちろん、８月１１日豪雨災害復興は始まったばかり。被災された方々の今を思うと、やはり胸が痛みますし、何かできることはないかと焦る気持ちでいっぱいです。

ただ、今回の災害に対して目の前の自然の生きざまに、しなやかさを私は感じたのです。なんかすごいなあ、自然は。

繰り返し改めて考えてみても、昨今の「〇〇年に一度の災害」が毎日のように起きてしまう日本の気象状況は、大変深刻です。今日から始まる学校は、残暑とは言えないほどの酷暑のために、外での活動自粛を余儀なくされるかもしれません。私たちの想像をはるかに超えてくる現状に、大きな判断ミスを犯してしまう可能性は否定できません。誰もかれも、どのように向き合うか、大難問を抱えているといっても過言ではないでしょう。

しかし、私たちはみんなで知恵を出し合って、しなやかに生きていかねばならないと、私は思います。そう生きていきたい、という願望なのかもしれません。

２学期の楡木っ子の学びは、しなやかであってほしいと、心から職員一同願っています。